

4-5

安全と安心こそ真のサービス也

介護事故ゼロへの挑戦

意識統一

事故防止対策

特別養護老人ホーム 愛生苑

福祉課長 広瀬 裕介（ひろせ ゆうすけ） 東京都多摩市和田1547	生活相談員 五箇 忠司（ごか ただし）
TEL：042-376-3555	E-mail：aisei@crocus.ocn.ne.jp
FAX：042-376-3530	URL：http://www2.ocn.ne.jp/~tokuyou/

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	愛生苑は平成9年に開設し80名の在苑者が生活されています。「優しさと温かさ」の理念のもとに、全職員が在苑者一人一人に最良の生活空間を提供することを目指しています。
----------------------------	---

<p>〈取り組んだ課題〉</p> <p>◎介護事故を防止するためには何をすべきか</p> <ul style="list-style-type: none">・ヒヤリハット事案の有効的な検証方法を確立する。・個々の在苑者の具体的なリスクを抽出する。・段階的、継続的に職員教育を行う。・OT、PTとの密な情報共有を行う。・職員のストレスマネジメントを行う。・科学的根拠による裏付けを行う。 <p>〈具体的な取り組み〉</p> <ul style="list-style-type: none">・ヒヤリハット事案が発生した段階で施設独自の「検討事項」にその内容と暫定的対応を記入。平行して職員相互の協議において事故防止について対応策を決定していく。・施設独自のリスクアセスメント表を作成。アセスメント表から導き出された事故リスクに対するケアサービスをケアプランに組み込み、実行に移す。・事故対策委員会を介護職員主導で行い、能動的に介護事故への取り組み強化を図る。・OT、PTに対して日常の介助場面で事故のリスクを排除・軽減する観点から介護職員が疑問や質問等を施設独自の「指示書」にて提出し回答してもらいその後のケアに役立てる。・施設内で発生した事故について発生の時間帯、場所、人員体制との関連性を検証し、在苑者の行動を制限することなく事故を防ぐ体制を整備する。	<p>〈活動の成果と評価〉</p> <ul style="list-style-type: none">・職員一人一人に「事故を起こさない」という強い責任感が生まれ、組織全体が活性化した。・職員の観察力が向上し、情報の伝達方法や記録方法等に工夫が見られるようになり、職員がチームとして機能し始めた。・施設内でそれぞれの役割が明確になると共に、ボトムアップ的な提案事項が施設の決定事項として取り入れられるようになり、職員のモチベーションアップに繋がった。・経験や勘のみに頼ることなく、科学的根拠に基づいたケアサービスが提供できるようになり、在苑者、ご家族からは「安心して生活できる、大変喜ばしいこと」と評価して頂いた。 <p>〈今後の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none">・個々の職員の介護技術を含めた能力開発。・この取り組みを継続的に行うことができるシステム作り。・職員の配置を含めた職場環境の整備。・リスクアセスメントの精度アップ。
--	--

【メモ欄】